

輝人

かがやきびと

このコーナーでは仕事やプライベートで
“輝人”を紹介します。
第48回は、薬剤師採用課の課長代理として、
そしてアカカベ薬局津の辺店 薬局長として活躍する、
柏元 良介さんをクローズアップします！

入社したあとも、 みんなが輝き続けられるように。 後輩たちへの責任感が自身の原動力。

身をもって感じていたからこそ、
伝えられること

入社1年目の9月から薬剤師の採用プロジェクト「PJ-R」に参加。薬剤師としてもまだ未熟な中で、店舗業務と採用プロジェクトの両立に苦戦しながらも、採用に関わることに大きなやりがいを感じていた。「同期の仲が良く、休みの日もアカカベの人と一緒に居る時間が長くて、入社して2年くらいは、仕事もプライベートもアカカベ一色という感じでした（笑）。自分自身が心から“この会社に入って良かった”と感じていたので、学生さんに話をする時も、自分の想いをイキイキと伝えることができました。また、そういう姿を会社からも評価していただけたことは、大きな励みになりました。」

覚悟を持って取り組んだ2022年

2020年3月、PJ-Rはプロジェクト体制から薬剤師採用課に発展、柏元さんもその一員となった。正式に組織図の中に位置付けられたことで、今まで以上に結果を出すことへの意識が強くなったという柏元さん。課長、主任の下で採用活動に取り組む中で、自分に足りないものに気づかされ、落ち込み、そして克服することを繰り返してきた。まだ課題は多いものの、2022年の自分には合格点をあげたいと昨年を振り返る。「主任としてメンバーを引っ張ってくださっていた先輩が退職されたので、2022年は新体制でのスタートの年でした。学生との関わり方も、結果にコミットする能力も高い尊敬する先輩の不在。自分たちだけでやれるだろうか、と不安な気持ちもありましたが、教えていただいたことを実直にこなして、自分が主体となって貪欲に動いた1年。やり残したことは思いつかないくらい、やり切った1年でした。」新体制で取り組んだ



柏元さんの
モットー+

先々のことを考えすぎるよりも、
今自分に与えられたことに全力で向き合うことを大切にしています。
現状に真摯に向き合うことで未来は開けていくと信じています！

柏元 良介
(かしもと りょうすけ)

2014年4月新卒入社
初配属は楠公通薬局。徳庵駅前薬局、扇町薬局を経て、2019年7月新店の津の辺薬局に着任。
薬剤師業務と並行して、薬剤師採用課の課長代理として採用活動の軸を担う。

2022年の採用活動、調剤薬局部門はこの春、
過去最高となる32名の新入社員を迎えた。

誰かの人生を左右する、 採用担当という仕事

「学生さんが会社をイメージする時、採用担当者とその雰囲気を思い浮かべる方が多いと思います。そういう意味では会社の代表を担っているという責任感もあります。会社が向かう方向や未来の姿、そのためにアカカベはどのような理念を持ち、どのような取り組みをしているのかということをお学生さんに伝える最前線にいると思うので、会社の動きにアンテナを張り、社長の想いをしっかり理解していきたいと思っています。入社10年目となり、就活生との年齢の差が大きくなってきて中で、昔のように同年代としてのコミュニケーションは難しくなりましたが、経験を重ねたからこそできることもあり、自身の引き出しは増えていると自負しています。自分が関わった学生さんが“アカカベに入社しよう”と決断してくださるということは、その人の人生を左右するとても大きなこと。入社がゴールではなく、入社した後もずっと輝けるように。

後輩たちへの責任感が私の原動力になっています。」

薬局は自分の帰る場所

採用に携わる時間の割合が増える中でも、薬剤師として薬局で過ごす時間は自身の拠り所になっているという柏元さん。「薬剤師と調剤事務が一つのチームとして、患者様から選ばれる薬局になるために取り組む空間は、自分の帰る場所という感じがします。現在所属している店舗の患者様はもちろん、以前働いていた薬局の患者様のお顔が浮かんで“元気にされているかな？”と思うこともよくあります。地域の方と直に触れあうことのできる薬局薬剤師としての役割は、採用活動と同様に大切にしたいと思っています。」

愛息に癒されています！

プライベートでは昨年第1子が誕生。公私共に忙しくも幸せな日々を送っている。「妻と協力しながら家事や育児も頑張っています。自由な時間は少なくなりましたが、息子の笑顔に毎日癒されています！」